



ほんのむし

2021/10/28 身延中図書館 読書月間号

三二図書集会(10/10実施)

教育実習生の読書の思い出



現在、早川智翔先生が3年A組に所属しながら、佐野隆一先生の指導のもと、教育実習を行っています。早川先生は統合前の身延中学校出身で現在大学4年生。専門は柔道。中学時代には全国大会・高校時代には国体にも出場し、輝かしい記録を数多く残しています。

読書月間中ということもあるので、早川先生に、中学時代の読書の思い出について突撃インタビューをしました。学校で全校一斉読書や家読の機会があり、本に親しむ機会に恵まれていたことと、当時、秋に行われていた「古本市」の行事を毎年楽しみにしていて、今でも忘れられない思い出として残っているそうです。

大学2年生の冬、新型コロナウイルス感染拡大で早川先生の置かれている状況もずいぶん変わってしまいました。思い通りの生活が送れない中で思い立ったことは「書店にいきましょう。」またネットのレビューを参考に、おもしろそうな本を探すことも多くなったそうです。

本を読むことでいくつか収穫したものがあつたそうです。例えば・・・

「考えが増える。」「本の中で得た知識や言葉などが柔道をはじめとしたスポーツ全般に役立つ。」「試合前の心の持ちように変化が現れてきた。」「・・・」などなど。

今は自己啓発本(能力向上や成功のための方法を書いた本)を多く読むそうです。お気に入りには『人生で大切なことはすべて「書店」で買える』千田琢也著(実業之友社)という本だそうです。とても興味深いタイトルです。

← 中学3年生の時、図書集会に出演してくれました。早川先生、どこにいるかな？



卓球に明け暮れた中学時代。マンガが大好きで『ベルサイユのバラ』に夢中になりました。マンガから得た知識は数多くあります。10年ほど前から歴史小説に夢中で寝る前の読書タイムには江戸時代にタイムスリップすることが楽しみです。最近読んだ本でおすすめなのは中学生の薬物依存について書かれたもので『強制終了いつか再起動』です。

読書を通して様々な経験をしたり、考えを巡らせて心を豊かにしてほしいと願っています。

(望月 由貴先生)



小さい頃は毎週、町立図書館に行くことが楽しみで、身近にいつも本がありました。大好きな本は『妖怪アパートの幽雅な日常』繰り返し、繰り返し読んでいて、気持ちが晴れない時に読むとすっきりします。自分の好きなジャンルの本にこだわって読むことがおすすめです。受験生としては語彙が豊富になり、作文対策に読書が役立っています。

(3B 松田 美音さん)



小さい頃、おばの読み聞かせを聞きながら、いとこや弟と眠りにつくことが心地よかったです。おばの家にはたくさんの本があり、中1の時に会った『パーシー・ジャクソンとオリンポスの神々』が読書にハマったきっかけ。それ以来、読書は私の日常で本のない世界は考えられません。本が好きすぎて時間を忘れてしまうことや、本の買いすぎでお小遣いが足りないことが悩みです。読書が苦手な人は「マンガ」から入ること、またはファンタジーもおすすめです。

(3A 近藤 心優さん)



中学1年生の時に天沢夏樹さんの『時をめぐる少女』を読んで読書のおもしろさを知りました。読書は世界が広がり、自分の価値観をかえてくれます。雨の日も本の中の描写がきれいで、それからは好きになりました。好きな作家は住野よるさん、宇山佳佑さん。読むたびに毎回、考えさせられたり、感動をもらったりします。

(3A 望月 あやさん)

身延中学校を代表する四名の「ほんのむし」のみなさんと図書委員とのトークショーが行われ、思い切り「読書愛」を語ってもらいました。今年も感染症拡大防止のため、放送で行いましたが、まるで長寿番組「〇〇の部屋」のような楽しい時間でした。